

北海道大学 低温科学研究所研究集会 『微生物から捉える水環境の物質循環と環境保全』(2011年2月24日開催)

開催場所:低温科学研究所研究棟2階講義室

オーガナイザー:北大・低温研 福井 学

集会の目的: 湖沼、沿岸海洋などの水環境は人為的な汚染の影響を受けやすい。これらの環境において炭素、窒素や硫黄などの物質循環には微生物が大きく関与していることが古くから知られている。しかし、近年解析手法の進展により、未解明な素過程の存在が指摘されてきており、物質循環過程を網羅的に把握するフェーズに至っている。近年発達あるいは発達途上の解析手法を利用して、いかに物質循環、特に、微生物が関与する素過程を解明するのか？ 新規素過程を組み込むことによって全体の物質循環は、いかに描くことができるのか？ また、これらの成果をふまえて、いかに実際の水環境の保全に資するのか？ 本研究集会では、水環境の物質循環研究において異なるアプローチをしている研究者を一堂に会し、研究発表及び議論を行うことにより、今後の物質循環研究の新基軸を提案することを目的とする。本研究集会で得られた成果は、寒冷圏のみならず水環境の富栄養化防止、化学物質汚染の生物学的浄化および保全に資することができる。

2月24日(木)

時間	発表者		演題
9:00-9:05	福井 学	北大・低温研	集会の趣旨説明
9:05-9:30	片野俊也	佐賀大・有明研究センター	潮汐の大きな海域における赤潮の発達過程
9:30-10:00	程木義邦	京大・生態研	野外で人為的に発生させたアオコの遺伝的多様性と環境応答
10:00-10:30	松井崇人・小島久弥	北大・低温研	沿岸堆積物における嫌氣的有機物分解への温度の影響
10:30-11:00	田淵敬一	大阪府庁	大阪府域における水環境保全の課題と微生物学的な視点からのアプローチの可能性
11:30-12:00	中川達巧	日大・生物資源	分子生態学的手法と培養法によるアマモ場における硝化機構の解明
12:00-13:00			昼食
13:00-13:30	小泉嘉一・但木優介	玉川大・農	無換水陸上養殖に向けた脱窒装置の開発
13:30-14:00	石井浩介	IHI	仮)FISH法の改善(アーキアの検出方法の工夫、菌体を明確に認識する方法)
14:00-14:30	花田智	産総研	新門新規微生物の単離方策と機能の解明
14:30-15:00	鏡味麻衣子	東邦大・理	湖沼における菌類の多様性と機能
15:00-15:30	平尾聡秀	東大・農	高山湖沼における浮遊性細菌群集の系統的多様性
15:30-16:00	村上正志	千葉大・理	土壌微生物の群集構造への環境変化の効果:小規模な培養実験の結果
16:00-16:30	嶋田敬三	首都大・都市教養	総合討論

(発表20分、討論10分)